

# 東日本大震災後の福島市の幼稚園を考える Part 3

学校法人宝勝寺学園 福島わかさ幼稚園 番匠 洋子 佐々木 恵理

震災・東京電力福島第一原子力発電所事故から

1年5か月福島市の幼稚園の現状は・・・

福島市の幼稚園は福島県中通り北部に位置し、強制的な避難区域ではないものの、比較的放射線量が高く、避難するかしないかは個々の選択にゆだねられている。3園ともに自然に恵まれ、緑豊かな環境の中で園生活をおくってきた。しかし、原発事故は“自然物”を健康に被害を与える危険なものとしてしまい、子ども達の暮らしぶりにも変化をもたらすに至っている。



## ～どう取り入れる 自然領域～

### 外遊びができないということとは？



心配は他にもたくさんあるけれど・・・

#### 保育者の心配

- 体力の低下
  - 自然領域の面がおろそかになるのではないかと
- できないのではなくて どういうふう  
に工夫して取り入れてい  
かを検討した。

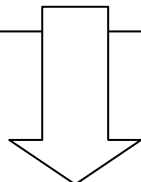


## 年長6月指導案をもとに活動内容(自然面)のピックアップ

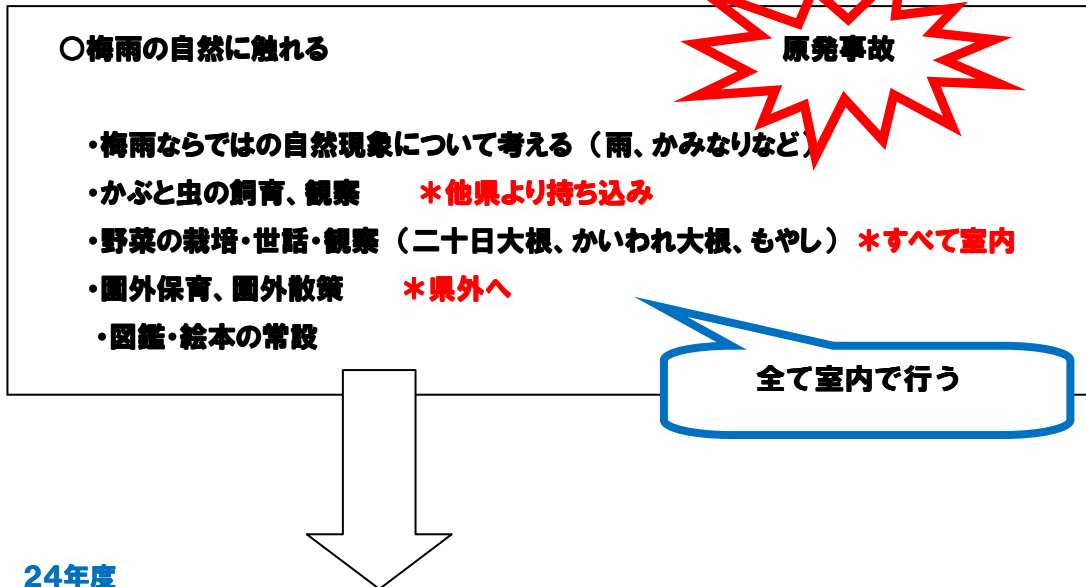
22年度

### ○梅雨の自然に触れる

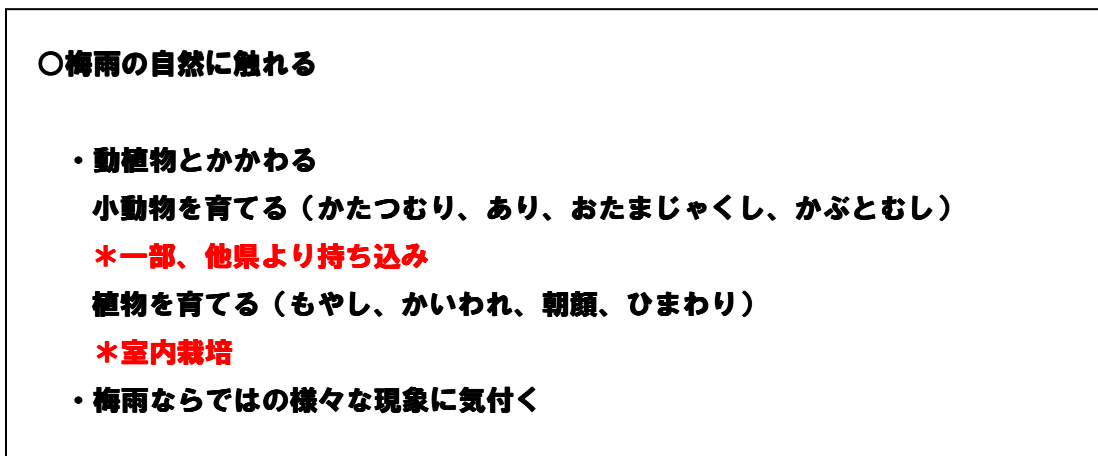
- ・園外保育(トリムの森)、園外散策に出かける
- ・小動物に触れる、飼育する (おたまじゃくし、カエル、かたつむり、かぶとむしなど)
- ・梅雨ならではの自然現象について考える (雨、かみなりなど)
- ・水遊びをする (砂あそび、泥んこあそび、ボディペインティングなど)
- ・馬見学



## 23年度



## 24年度



## 考察

- ・5領域を考え直すきっかけとなった
  - ・自然領域をいろいろな角度から考えることができた
  - ・ひとつの教材をクラス全員で共有し、一喜一憂できた
  - ・自然への自発的関心が薄れてしまった
  - ・季節の変化や自然現象などほとんどが保育者からの発信となり、子どもは受け身となった
- ⇒ **保育者の成長の機会となった**

## 今後の課題

- ・正しい知識と情報を持って、元の保育に近づけていく
- ・自然の中で、安心して遊べる環境を増やしていく
- ・保育者の質の向上に努める

放射能に関しては、これからも気をつけていかなければいけないことではあるが、それだけに気をとらわれず、子どもを伸ばしていくという幼稚園教育の根本に目を向けて指導にあたらなければならない。

## 年度毎の活動内容の比較

### 22年度 5月

活動内容	留意点・他
○春の自然にふれる ・戸外で集団遊びを楽しむ ・園外散策、遠足に出掛ける ・草花採集や小動物の飼育・観察をする ・畑作りをする (トマト、きゅうり、なす、さつまいもの苗植え)	・新しく同じクラスになった友だちとの関わりも見られるようになってきた。鬼ごっこなどの集団遊びを通し、更に友だち関係が広がるように配慮する ・自然への驚きや発見を敏感にキャッチし、それをまわりの子供たちに伝えて自然への関心を深めていく ・野菜の苗を自分たちの手で植え、生長の様子を見に行ったり、水をあげ、世話をしながら収穫を心待ちにし、一つ一つの成長に関心を持てるようにする

### 23年度 5月

活動内容	留意点・他
○春の自然を感じる ・遠足に出かける ・絵本や図鑑をみる	・草花や気温、日差しの暖かさなど様々な場面で感じることのできる「春」を話題に出し、気付きや疑問に思う気持ちを大切にしていく。図鑑や絵本などを部屋に用意し、いつでも調べられるようにするなど関心を持てるようにする ・外に出かける時は、とにかく外で楽しめるよう空気を思い切り吸う、体全体で季節を感じる

### 24年度 5月

活動内容	留意点・他
○春の自然に触れる ・動植物に触れる ・自然の様々な現象に気付く 植物を育てる 遠足に出かける ・集団あそびをする 運動あそび(鬼ごっこ、ドッジボールなど)	・草花や気温、日差しの暖かさなど様々な場面で感じることのできる「春」を話題に出し、気付きや疑問に思う気持ちを大切にしていく。図鑑や絵本などを部屋に用意し、いつでも調べられるようにするなど関心を持てるようにする ・部屋の中でも動植物に触れる機会を持てるようにし、動植物の生長や自然に対しての興味を育てていくようにする ・子供たちが自然の中でのびのびと過ごし、思い切り体を動かして遊べるような時間を作る

## 22年度 6月

活 動 内 容	留 意 点 ・ 他
<p>○梅雨の自然に触れる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園外保育(トリムの森)、園外散策に出かける</li> <li>・小動物に触れる、飼育する (おたまじゃくし、カエル、かたつむり、かぶとむしなど)</li> <li>・梅雨ならではの自然現象について考える (雨、かみなりなど)</li> <li>・水遊びをする (砂あそび、泥んこあそび、ボディペインティングなど)</li> <li>・馬見学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・晴れた日は戸外で友だちと思いきり体を動かして遊び、雨の日でも梅雨ならではの自然に触れて遊べるようにする</li> <li>・自然への驚きや発見に共感し、図鑑や絵本で調べたり、関心を深めていけるようにする</li> <li>・小動物を自分たちで飼育していくことで、生長の変化に興味を持ったり、命の大切さを感じ、生き物への思いやりの気持ちが深まるようにする</li> <li>・暑さの中でも水遊びをすることで、心地良さを感じたり、水の感触を味わいながら、汚れるのを気にせずにダイナミックに遊べるようにする</li> </ul>

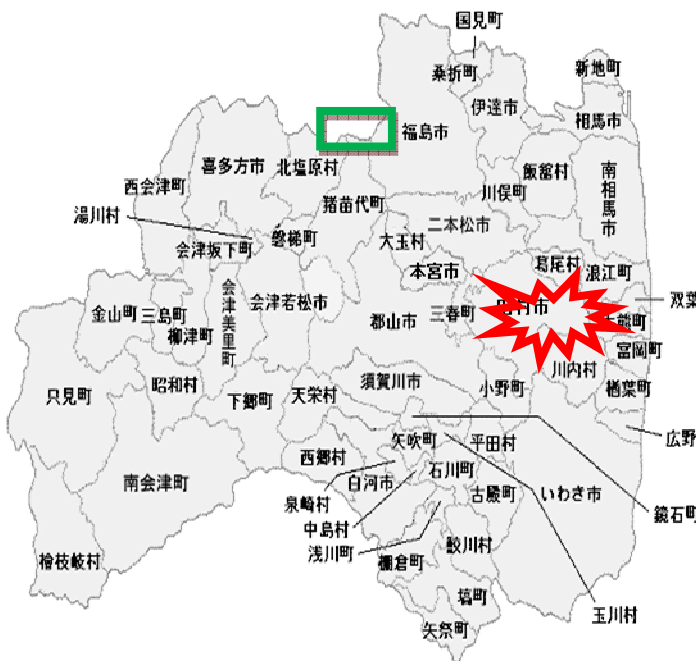
## 23年度 6月

活 動 内 容	留 意 点 ・ 他
<p>○梅雨の自然に触れる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・梅雨ならではの自然現象について考える (雨、かみなりなど)</li> <li>・かぶと虫の飼育・観察</li> <li>・野菜の栽培・世話・観察 (二十日大根、かいわれ大根、もやし)</li> <li>・園外保育、園外散策</li> <li>・図鑑・絵本の常設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・梅雨ならではの自然現象に興味・関心が高まるよう、保育者が感じたことをその都度伝えていく</li> <li>・自然への驚きや発見に共感し、図鑑や絵本で調べられるよう常に準備をしておき、探究心を持てるように配慮する</li> <li>・かぶと虫を自分たちで飼育していくことで、生長の変化に興味を持ったり、命の大切さを感じ、生き物への思いやりの気持ちを育てていく</li> <li>・自分たちで野菜を育て、その中で外と部屋での生長の違いに気づいたり、太陽の大切さを伝えていけるように配慮する</li> </ul>

## 24年度 6月

活 動 内 容	留 意 点 ・ 他
<p>○梅雨の自然に触れる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動植物とかわる 小動物を育てる 植物を育てる 観察をする</li> <li>・梅雨ならではの様々な現象に気付く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動植物の世話をすることで、生き物を可愛がる心を育てることが出来るように配慮する。生長を感じることでそれぞれに命があることに気付き、今まで以上に責任を持って育てていけるようにする</li> <li>・自然への驚きや発見・疑問に思う気持ちを大切に、取り上げていくようにする。図鑑や絵本を常に準備し、クラス全体で考えたり、一緒になって調べ、関心を高めたいけるよう配慮する</li> </ul>

# ～東日本大震災後の福島市の幼稚園を考える～



震災・東京電力第一原子力発電所事故から 1年5か月福島市の幼稚園の現状は・・・

福島市の幼稚園は福島県中通り北部に位置し、強制的な避難区域ではないものの、比較的放射線量が高く、避難するかしないかは個々の選択にゆだねられている。3園ともに自然に恵まれ、緑豊かな環境の中で園生活をおくることができた。しかし、原発事故は自然物を“健康に被害を与える危険なもの”にしてしまい、子ども達の暮らしぶりにも変化をもたらす今に至っている。

	22年	23年	24年
①放射能値	—————	1.16 (6月) (マイクロシーベルト毎時)	0.24 (7月) (マイクロシーベルト毎時)
②外遊び	○	× (12月より一部解除)	30分以内 (一部解除)
③避難による退園(充足率)	95%	80%	66%
④除染		表土入れ替え 高圧洗浄 自動ドア(簡易) エアコン設置 遊具塗り替え	

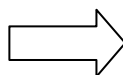
## ～ 外遊びが出来ないということは ～

### 保育者の心配

○体力の低下

できない、しないのではなく

○自然領域の面がおろそかになるのでは  
ないか



てどのように工夫して取り  
入れていくかを検討した。



# 東日本大震災後の福島県福島市の 幼稚園を考える Part 3

～どう取り入れる 自然領域～



学校法人宝勝寺学園 福島わかくさ幼稚園

番匠 洋子 佐々木 恵理

指導助言 福島学院大学福祉学部 佐々木美恵

# 東日本大震災後の福島市の幼稚園を考える Part 3

## ～どう取り入れる 自然領域～

東日本大震災に続く東京電力第一原子力発電所事故の影響を受けた福島市の子ども達の生活は どのように変化したであろうか。

外遊びが制限されてから たくさんの影響があった中で 主に自然に関する面を取り上げ 指導案と実践から震災前と比較し、私達はどのように対応してきたのか、今後どのような保育展開をしていったらよいか・していけるかを考えてみたい。

当幼稚園はもともと自然に囲まれた緑豊かな幼稚園であった。自然領域関係の活動においては 子ども達も保育者も意識しなくても 自然のあそびはあたりまえのように日常生活の中に取り込まれていた。今回の震災では大きな被害はなかったものの、震災直後の東京電力第一原子力発電所事故において 福島市民、そして子ども達の日常生活に多大な被害がおよんだ。 福島市内は、放射線量が比較的高く、戸外での活動は当初はすべてにおいて、現在も時間や天候などたくさんの規制をかけて活動せざるをえない状況にある。

幼稚園生活で「外に出られない」ということは子どもにとっても保育者にとってもどれほど多くの問題が生じたかはいうまでもない。私たちは子供たちの意識を外に向けないように室内活動の充実を図ることに力を入れた。結果、無意識のうちに自然への興味がうすれたのも事実である。子どもたちにとって何が必要なのか、どうしたら当たり前のことができるのか、指導案から自然領域に絞って考えてみた。

## 考察

- ・5領域を考え直すきっかけになった → **指導案の見直し**
- ・自然領域をいろいろな角度から考えることができた → **環境設定の工夫 保育内容の検討**
- ・ひとつの教材をクラス全員で共有し、一喜一憂できた → **室内活動の充実**
- ・自然への関心が薄れてしまった
- ・季節の変化や自然現象などほとんどが保育者からの発信となり、子どもは受け身となった



園の近くの田んぼで



室内でかいわれ栽培

## 今後の課題

1年5ヶ月が過ぎた福島の現状は、日常生活においてもまだかなりの規制が強いられている。同じ福島でも場所によって放射線量も違っているため、各家庭においても避難した人、しない人、食材を県外産に変える人等、また各幼稚園においても外に出て遊ぶ時間を30分～1時間以内にする、砂場を室内にするなど対応も様々である。

20年後、30年後がわからない恐怖をかかえながら、それでも福島で生活していかななくてはならない子どもたちの為に、幼稚園そして保育者のできることはなにかを改めて考えさせられた。

○正しい知識と情報を持って、元の保育に近づけていく

○安心して遊べる環境を増やしていく

→ これに関しては私達保育者の力だけではどうにもならないこともあるので、行政に働きかけていきたい

○保育者の質の向上に努める

→ 放射能に関しては、これからも気をつけていかなければいけないことではあるが、それだけに気をとられず、子どもを伸ばしていくという幼稚園教育の根本に目を向けて指導にあたらなければならない

以上のことが 今後の大きな課題になるであろう。この原発事故は決して忘れてはならないことであり 福島の幼児教育に携わる私達が今後も発信していくべきであると考えます。